

2007年度 本給表改定案

拡大窓口報告

機構より 2007年度の本給表の改定案が提示される

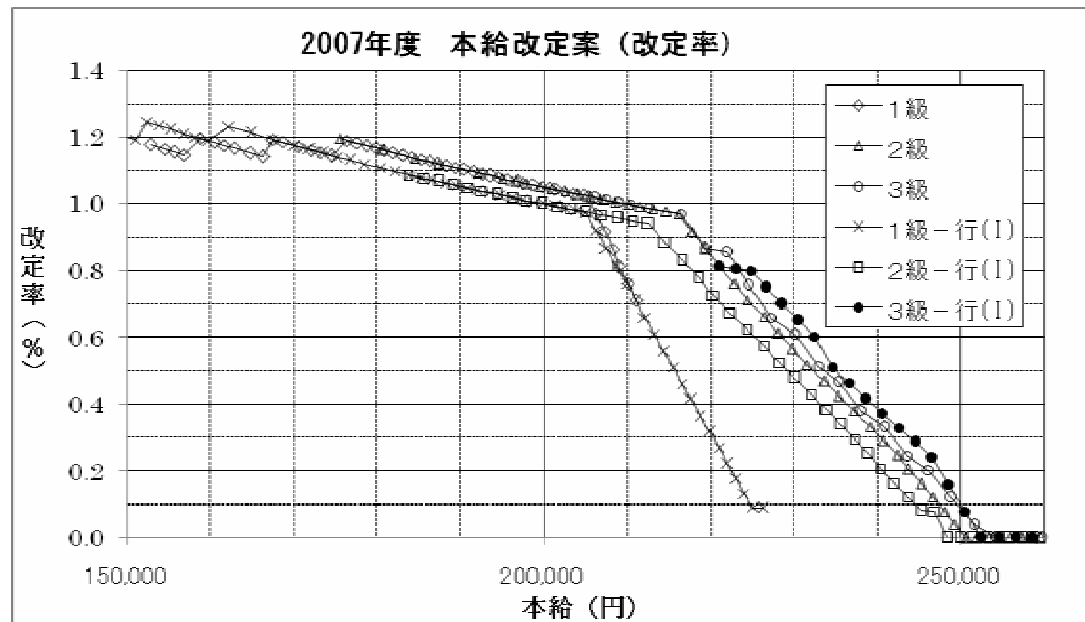
機構は 11/16 の拡大窓口において、2007 年度本給改定に係る具体的な内容を提示してきました。両労組に同時に提示する必要があるとして、従来の交渉経緯を無視し、総枠や初任給について合意のないまま、いきなり本給表の改定案を提示しました。このやり方は今後課題を残すと考えます。提示された内容は次のとおりです。

本給表は、1 級は 51 号まで、2 級は 40 号まで、3 級は 19 号までを改定。内容は次表のとおり。

大卒初任給は 192,100 円で 2 級 6 号の枠外、高卒初任給は 154,700 円で 1 級 1 号。提示された本給表の改定案は、改定額が最大でも 2,100 円と少額であり、国家公務員の行政職(1)の配分と同傾向、つまり「2007 年度本給改定案(改定率)」グラフに見られるように、行政職(1)の改定率と重なります。

扶養手当については、子等に係る手当の月額を各 1 人につき 6,000 円から 6,500 円とする。

改定の実施時期は、平成 19 年 4 月 1 日からとする。



号	1 級				2 級				3 級			
	現行	改定後	改定額	改定率	現行	改定後	改定額	改定率	現行	改定後	改定額	改定率
1	152,900	154,700	1,800	1.177	175,500	177,600	2,100	1.197	206,200	208,300	2,100	1.018
2	154,600	156,400	1,800	1.164	180,600	182,700	2,100	1.163	207,400	209,500	2,100	1.013
3	155,700	157,500	1,800	1.156	184,600	186,700	2,100	1.138	209,000	211,100	2,100	1.005
4	156,900	158,700	1,800	1.147	187,500	189,600	2,100	1.120	210,400	212,500	2,100	0.998
5	158,800	160,700	1,900	1.196	192,100	194,200	2,100	1.093	212,500	214,600	2,100	0.988
6	160,500	162,400	1,900	1.184	195,100	197,200	2,100	1.076	216,500	218,600	2,100	0.970
7	161,700	163,600	1,900	1.175	196,700	198,800	2,100	1.068	219,300	221,400	2,100	0.866
8	162,900	164,800	1,900	1.166	198,000	200,100	2,100	1.061	222,100	224,200	2,100	0.855
9	164,800	166,700	1,900	1.153	199,500	201,600	2,100	1.053	224,600	226,700	2,100	0.757
10	166,300	168,200	1,900	1.143	201,100	203,200	2,100	1.044	227,300	228,800	1,500	0.660
11	167,500	169,500	2,000	1.194	202,600	204,700	2,100	1.037	230,100	231,500	1,400	0.608
12	168,700	170,700	2,000	1.186	204,100	206,200	2,100	1.029	232,900	234,100	1,200	0.515
13	170,600	172,600	2,000	1.172	205,600	207,700	2,100	1.021	235,400	236,500	1,100	0.467
14	172,100	174,100	2,000	1.162	207,100	209,200	2,100	1.014	238,100	239,000	900	0.378
15	173,300	175,300	2,000	1.154	208,600	210,700	2,100	1.007	240,900	241,700	800	0.332
16	174,500	176,500	2,000	1.146	210,200	212,300	2,100	0.999	243,600	244,200	600	0.246
17	176,400	178,500	2,100	1.190	211,600	213,700	2,100	0.992	246,200	246,700	500	0.203
18	177,600	179,700	2,100	1.182	213,100	215,200	2,100	0.985	248,900	249,200	300	0.121
19	178,800	180,900	2,100	1.174	214,700	216,800	2,100	0.978	251,700	251,800	100	0.040
20	179,900	182,000	2,100	1.167	216,300	218,400	2,100	0.971	254,400	254,400	0	0.000
21	180,800	182,900	2,100	1.162	217,800	219,800	2,000	0.918	257,100	257,100	0	0.000
22	182,000	184,100	2,100	1.154	219,400	221,300	1,900	0.866	259,700	259,700	0	0.000
23	183,100	185,200	2,100	1.147	221,100	222,900	1,800	0.814	262,400	262,400	0	0.000
24	184,200	186,300	2,100	1.140	222,900	224,600	1,700	0.763	264,900	264,900	0	0.000
25	185,300	187,400	2,100	1.133	224,400	226,000	1,600	0.713	267,500	267,500	0	0.000
26	186,300	188,400	2,100	1.127	226,400	227,900	1,500	0.663	269,900	269,900	0	0.000
27	187,300	189,400	2,100	1.121	228,200	229,600	1,400	0.613	272,200	272,200	0	0.000
28	188,300	190,400	2,100	1.115	229,900	231,200	1,300	0.565	274,600	274,600	0	0.000
29	189,400	191,500	2,100	1.109	231,600	232,800	1,200	0.518	276,800	276,800	0	0.000
30	190,500	192,600	2,100	1.102	233,700	234,800	1,100	0.471	278,800	278,800	0	0.000
31	191,600	193,700	2,100	1.096	235,400	236,400	1,000	0.425	280,800	280,800	0	0.000
32	192,700	194,800	2,100	1.090	237,200	238,100	900	0.379	282,900	282,900	0	0.000
33	193,600	195,700	2,100	1.085	239,200	240,000	800	0.334	284,900	284,900	0	0.000
34	194,600	196,700	2,100	1.079	240,800	241,500	700	0.291	286,400	286,400	0	0.000
35	195,700	197,800	2,100	1.073	242,400	243,000	600	0.248	288,200	288,200	0	0.000
36	196,800	198,900	2,100	1.067	243,800	244,300	500	0.205	290,000	290,000	0	0.000
37	197,600	199,700	2,100	1.063	245,300	245,700	400	0.163	291,900	291,900	0	0.000
38	198,700	200,800	2,100	1.057	246,700	247,000	300	0.122	293,500	293,500	0	0.000
39	199,800	201,900	2,100	1.051	248,100	248,300	200	0.081	295,200	295,200	0	0.000
40	200,800	202,900	2,100	1.046	249,300	249,400	100	0.040	296,700	296,700	0	0.000
41	201,400	203,500	2,100	1.043	250,700	250,700	0	0.000	298,200	298,200	0	0.000
42	202,500	204,600	2,100	1.037	252,000	252,000	0	0.000	299,400	299,400	0	0.000
43	203,600	205,700	2,100	1.031	253,400	253,400	0	0.000	300,900	300,900	0	0.000
44	204,700	206,800	2,100	1.026	254,600	254,600	0	0.000	302,100	302,100	0	0.000
45	205,300	207,400	2,100	1.023	256,000	256,000	0	0.000	303,200	303,200	0	0.000
46	206,300	208,300	2,000	0.969	257,300	257,300	0	0.000	304,400	304,400	0	0.000
47	207,300	209,200	1,900	0.917	258,600	258,600	0	0.000	305,600	305,600	0	0.000
48	208,400	210,200	1,800	0.864	259,600	259,600	0	0.000	306,700	306,700	0	0.000
49	209,000	210,700	1,700	0.813	260,700	260,700	0	0.000	307,800	307,800	0	0.000
50	210,100	211,700	1,600	0.762	262,000	262,000	0	0.000	309,000	309,000	0	0.000
51	211,200	212,700	1,500	0.710	263,000	263,000	0	0.000	310,200	310,200	0	0.000
52					263,800	263,800	0	0.000	310,700	310,700	0	0.000

以下省略、変更なし

窓口交渉報告 ～ 新人事評価制度について

7級以上への試行結果と、6級以下への試行状況の説明がありました。

新人事評価制度において、昨年度行った7級以上への試行の結果と、今年度実施の6級以下への試行（職務設定）状況について、10月から11月にかけて数回にわたる窓口交渉にて、機構から労組に説明がありました。7級以上への試行については、評価点の分布や、組織ごとの評価点の平均がある程度出てきています。ただしこの評価を処遇に反映させるとどうなるかというシミュレーションは行ってないまま、今年度は本格実施に入っている（来年6月一時金から反映）とのこと。

新人事評価制度については、真に公平で誰もが納得できる制度となるよう、不服申し立ての仕組みなども含めて、今後も協議を重ねていきます。機構でもアンケートを行っていますが、労組にもぜひご意見をお寄せ下さい。

- 窓口交渉のやりとりから -

1. 7級以上への試行結果について

機構：試行の過程で拠点や部門から意見を聞いた。試行における最大の改善点は、評価体制の見直し。大きな部門や部門内で場所が離れているところでは、元々承認者は全て部門長だったが、実態に即してユニット長、副部門長相当の「評価承認補助者」を新たに設け、現実の仕事が見える人に協力してもらうことにした。試行において、制度の根幹に関わる意見はなかった。

業績評価点は、昨年度の方式では100点が要求通りとなる。今年度の評価では40点が標準となる。

処遇への反映については、S、A、Bまでは点数分布に従って決める。SとAとBの境界については、処遇への反映は級別・ユニット別で行われるため、何点だからどういう処遇とは言えない。CとDは絶対評価なので個人ベース。

労組：職種ごとの点数は。

機構：7級以上については、マネージメント業務が多いこともあり、職種ごとでは見ていない。事務系も技術系も研究系も同じ100点ということ。成果型・達成度型のタイプ別では見たが、成果型はばらつきが大きかった。6級以下については職種ごとの分け方もする。

労組：事務系職員は、「事務系」というカテゴリーの評価ではなく、異動したらその部門の母集団の中での評価になるということか。

機構：その通り。本当は級別・職種別の評価がよいが、職種別に分布をとるほど人数がない。所属が違えば評価承認者が違ってしまいうので比較できない。仕事を与えた人が評価するのが前提。組織そのものの指標としては独法評価で出てくるくらいしかない。一般職員については、組織の評価が低いからその職員は皆評価が低いということにはならず、その組織の中でどれだけやったかの評価になる。

労組：7級でもGLと研究者では仕事異なる。

機構：ウェイトで研究とマネジメントなど、やるべき仕事を表す。

労組：グループの論文の本数が、GLの評価になるのか。

機構：それもあるが、内容にもよる。ユニット長などが見ているはず。

労組：評価のやり直しの要求は。

機構：なかった。

労組：今回の試行結果を処遇に反映させるとどうなるか。各人の給与通知がどうなるかでシミュレーションを行って初めて「試行」が完結したと言えるのではないか。

機構：そこまでは行ってない。発揮能力のSABCDは数年分蓄積するので、毎年の評価にはならない。業績評価点の分布を処遇に反映させる部分は、同じ点でも年によってAになったりBになったりする。試行で出して意味があるか。

労組：点が良くても即プラスとはならないということか。原資がいるのか。

機構：期末手当は同じ原資の中でパイの取り合いとなる。昇給の方は原資がいる。一時金と定期昇給は業績評価のみ。昇格は数年分の業績評価&発揮能力評価。あと研究系の業績審査や事務系・技術系の面接審査がある。

能力評価は部門の中で分布をとってないので、機構の中での共通基準による絶対評価。それを複数年蓄積して、昇格に反映する。

2. 6級以下の職務設定状況について

機構：対象者の97%が職務設定を行い、その中のさらに97%が面談を行った。

意見は、評価者側の意見を聞いた。被評価者側の意見はWebアンケートを行っている。(労組注:28日締め切りです。忘れずに！)

労組：職務設定を行っていない3%の人についてはどうするのか。

機構：海外に行った人や、確信犯的にやらない人。やらない人については、本格実施の時は職務命令でやらせることになるだろうが、職務設定するのは上司。

労組：旧原研では、級ごとに要求があり、それに対してどうという評価だったが、そういうモデルはないのか。

機構：マネジメントの範疇。

労組：旧原研では理解不足がある。旧サイクル機構では今年度は以前の様式による評価が「本式」なので、2つの様式を並行して評価を行っていることになるが、結果が違ったりしないのか。

機構：業績はずれないのでは。

機構：6級の職員にも「評価補助者」をお願いしたい。評価者に代わって面談に当たることは、今後労組と協議したい。

平成18年度 新人事評価制度 7級以上への試行結果

組織	業績評価						発揮能力評価	
	平均点	120点台	110点台	100点台	90点台	80点台	最も多い符号	全体に占める率
機構全体	108.4	約2%	約38%	約59%	約1%強	約1%弱	A	71%
運営管理部門	108.4	0%	約34%	約66%	0%	0%	A	69%
事業推進部門	108.7	0%	約49%	約50%	約1%	0%	A	63%
研究開発部門(基礎系) 1	108.0	約3%	約32%	約63%	約2%	0%	A	71%
研究開発部門(プロジェクト系) 2	109.5	約1%	約53%	約46%	0%	0%	A	74%
研究開発拠点	108.3	約2%	約36%	約60%	約2%	約1%弱	A	74%

1：安全研究センター、先端基礎研究センター、原子力基礎工学研究部門、量子ビーム応用研究部門、核融合研究開発部門及び原子力エネルギー基礎連携センター

2：次世代原子カシステム研究開発部門、核燃料サイクル技術開発部門、地層処分研究開発部門及びバックエンド推進部門